

1面のつづき

未来を拓く
郷土愛

次代を担う子どもたちの郷土への愛着や自然を敬愛する心を育む上で、あきる野の自然や文化に触れ、誇りを抱きながら学ぶことは、とても大切なことであり、す。このことは、人が育ち、人が輝くあきる野の教育にも役立つものであります。

誰もが健やか
郷土の慈愛

子育て、健康、高齢者、障がい者の各分野において、制度改革をはじめ、さまざまな変化が生じている中、地域全体で支え合い、助け合いのできる地域福祉の実現に向けて取り組まなければなりません。

私立保育園の増設策などに対して継続して支援を行い、老朽化が進む東秋留保育園については、建替えにあわせ、民設・民営化に取り組んでまいります。

市をめぐってまいります。子どもたちが安全で安心して過ごせるよう、地域の方々の協力により見守りや声かけを行うなど、地域で子どもを守る環境づくりをさらに進めてまいります。

児童・生徒の安全・安心対策や学力の向上、教員の資質向上に向けた取り組みを推進するとともに、「いじめ・不登校への挑戦」や「いつでもどこでもだれでも」相談できる体制の充実を図ってまいります。



東秋留保育園

学童クラブの待機児童解消については、喫緊の課題であります。草花児童センターの改修を早急に行い、学童クラブ定員の増加を図り、待機児童の解消に努めてまいります。

「めざせ健康あきる野21計画」に基づく高齢者の健康づくり施策として、ふるさと農援隊事業に取り組みを進めてまいります。利用者から農園の拡大の声が上がるほど、順調に進んでおります。今後は、農園を増やし、さらに、山林へ活動の場を広げるための準備を進めてまいります。

完了いたします。耐震化に加えて、学校施設の設備などの老朽化対策についても安全性、緊急性を考慮し、順次整備を進めてまいります。

生徒数の増加に対応するため、秋多中学校のプレハブ教室の設置や特別な支援を必要とする児童・生徒の教育を行うための特別支援学級を、新たに一の谷小学校と西中学校に設置いたします。

あつた健康増進メニューを選択できるように、民間施設事業者と協力しながら、体制づくりを進めてまいります。

介護が必要な高齢者とその家族の生活を支える介護保険制度は、制度開始から10年目を迎え、第4期事業計画が始まります。サービス利用量が増え続ける中、私は、保険料の段階をきめ細やかな10段階とするとともに、所得の低い方の負担を軽減し、基準額も据え置きとしました。

大地の恵みが
郷土をつくる

私たちが暮らす秋川流域は、昔から人が住むのに最適な立地条件を備えていると言われている。豊かな自然と観光資源の宝庫でもあり、人々は、自然環境と共生しながら、自然愛や郷土愛を育ててきたと思えます。

この恵みを将来にわたって引き継いでいくためには、森林緑地や河川環境を計画的に保全していく仕組みづくりに加えて、地球温暖化防止など幅広い視野の下、取り組んでいかなければなりません。



観光地としての五日市地区の風景

市域の約60%を占める森林は、私たちの共通の財産であります。私は、各地域の森林を調査した上で、環境の森、経済の森、郷土教育の森、健康の森、歴史文化の森などの特色ある森づくりを進め、市民をはじめ、

明日の安定に
向けた
郷土づくり

圏央道の整備が進むに伴い、多摩地域も大きく変化していくことが予想されます。

東京都では、圏央道沿いに、多摩シリコンバレー構



旧秋川高校のメタセコイヤ並木

広く都民の皆さんにも活用していただけるよう、あきる野だからできる環境都市の実現をめざし、幅広い市民との連携・協力により、「郷土の恵みの森構想」を策定いたします。

また、かつて、五日市の先進的な風土と伝統は、数々の優れた人材を輩出し、外部の知識人を惹きつけました。そして、五日市文化圏を形成し、東京の発展に大きな役割を果たしてきたのであります。多くの人が憧れて観光に訪れるまちと、なることを願うとともに、偉大な先人たちの偉業に思いをめぐらし、このふるさとに誇りを持てるよう、「東京のふるさと五日市物語」を創り上げてまいります。

地域産業の振興を促進するための方策として、中小企業の発展や魅力ある商店街、観光地の創出などに取り組むとともに、多摩シリコンバレー構想を踏まえながら、旧秋川高校を中心とした周辺地域における土地利用に関する検討結果を基に、東京都に対して、産業誘致の推進や都道の整備促進などの要請をしております。

武蔵野田駅周辺地区土地区画整理事業については、まちづくり協議会との協議を進めつつ、東京都と区画整理事業の実施に伴う、具

地域活性化プロジェクトによる秋川駅北口地区、五日市地区および養沢地区の活性化施策については、それぞれの地域資源を最大限に活用し、活性化戦略委員会を中心に進めてまいります。特に、歴史と文化の五日市地区と、日本の原風景である里山の文化的景観が美しい養沢地区については、

東京都の観光アドバイザーの提案を活かしてまいります。観光は、運輸、宿泊、飲食業など多くの産業に経済波及効果をもたらす、多様な就業の機会も提供します。観光の発展は、地域固有の伝統、文化、歴史などの魅力をより一層輝かせるものでもあります。私は、あきる野の地域特性を活かし、商・工・農・林などの産

体的な協議を行ってまいります。市内の幹線道路の多くは都道であることから、東京都と十分な連携をとりながら、整備促進に取り組んでおり、現在も、東京都の受託事業として、五日市街道の一部区間において、歩行者の安全対策のため、歩道整備事業を行っております。今後とも、市内の道路交通網を早期に構築するため、新たな路線の整備について、東京都と連携をしながら、積極的に進めてまいります。

郷土のために
市民・議会・行政
の連携

平成21年度の行財政運営は、市民・議会・行政の三者がスクラムを組み、郷土

業と連携させながら、「観光産業」を戦略的産業と位置付け、展開してまいります。あきる野農業には、広大な農地と優れた技術を有する人材など、将来の限りない発展性を秘めた豊富な資源があります。郷土愛による農業の振興を図り、あきる野市ならではの地産地消農業をより拡大させ、新鮮な食材を身近で購入できるシステムづくりに取り組んでまいります。さらに、農業の生産性を高め、農業経営の安定化をめざすため、

遊休農地の活用施策や畜産分野における生産物の流通支援、農業従事者の確保など総合的な農業施策について、農業委員会や関係機関などと協議・検討しながら取り組んでまいります。

をづくり、郷土愛を育むスタートのときであります。現在、行政改革推進市民会議において、行財政改革の進行管理と提言について、活発な議論が交わされており、この議論の内容については、広く市民の皆さんに公開しておりますので、多くの方からさまざまな意見や提言が寄せられるものと思っております。私は、市民の思いを市政に反映させる機会が増えるものと期待をしております。

議会におきましては、地方分権の時代にあつて、行政監視機能や政策立案機能といった役割を求め、機能が高まってきている中で、議会自ら、定数の削減を断行していただきました。役割がより大きくなりますが、より活発な議論をお願いするところでもあります。

景気の先行きが不安視され、わが国の方向性も不透明な局面にある状況を見ると、あきる野市だけでもこの難局に立ち向かうことは困難であります。

市政を預かるものとして、国や東京都から支援をいただけるよう要請を行うとともに、市長会を通じての協議・検討や政策提言、西多摩地域広域行政協議会としての取り組み、秋川流域の自治体との連携の強化も図ってまいります。

「天に時有り、地に利有り」の至言があります。今、このときを絶好の機会としてとらえ、人の和をもつて、ふるさとあきる野の創生に全力で取り組む所存であります。

(平成21年度の主な事業と予算は、4月15日号に掲載する予定です)